

反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法が著効したと考えられる両側卵巣チョコレート嚢胞を合併した反復 ART 不成功例

辻勲¹、重田護¹、高矢千夏¹、江原千晶¹、菊川忠之¹、河邊麗美¹、藤岡聡子¹、福田愛作¹、森本義晴²

¹IVF 大阪クリニック、²HORAC グランフロント大阪クリニック

40 歳の未妊妊症例。他医にて低刺激法 ART による採卵を 8 回、新鮮ならびに凍結融解胚移植を合計 6 回受けるも妊娠が成立しなかったため、当院での治療を希望し来院。初診時の超音波検査では両側卵巣にチョコレート嚢胞（右：40 mm、左：20 mm）を認めた。子宮内膜症による反復 ART 不成功と診断し、ART 前にチョコレート嚢胞反復穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法を行う方針とした。ジェノゲストは月経周期 6 日目から 1 日 2mg を 3 ヶ月間投与した。嚢胞穿刺吸引術は経膈超音波ガイド下で、ジェノゲスト投与開始直後、1.5 ヶ月後、3 ヶ月後の 3 回実施した。ジェノゲスト投与終了後、最初の月経周期にレトロゾールによる卵巣刺激にて ART を実施した。採卵数は 3 個、うち成熟卵数は 2 個、一般体外受精により胚盤胞を 1 個獲得、同一周期に新鮮単一胚盤胞移植を行い妊娠が成立し、現在妊娠継続中である。当院では本治療法の有効性を検証するため、現在前方視的検討を実施中である。本発表では文献的考察を加えて報告する。